

猿猴橋の魅力再発見 — 猿猴橋復元活動の報告 —

大 橋 啓 一

一、猿猴橋の歴史

広島デルタは、近世以降、毛利・福島・浅野と城主を代えながら、新田開発、灌漑用水の整備、城下町の洪水防禦がすすめられた。藩あげての大規模な干拓整備のたまものであった。中国山地に発する太田川は多くの中小河川を集めながら、北北東から南南西へとのびる独特の断層構造に囲まれる三角州に大量の土砂を堆積させながら、広島湾に流れ込んだ。河口には広大な低湿地帯が広がる。そこに人が住み、農業にいそしみ、商工業の繁栄する街区としてゆくのは、大変な労力と資本が必要であった。デルタには治水工事で整備された七本の河川が南北に広島湾へと流れていた。その東西を貫くように、西国街道（山陽道）が走っていて、七本の川それぞれに一本の橋が架けられていた。この計七本とほかにかけられた二本の橋

が、デルタの東西を結ぶ唯一の交通の生命線であった。川は当初からたびたび洪水に見舞われて、そのたびに、橋は崩落、流出する危険にさらされていた。広島町には橋は、ことのほか重要であった。そのいちばん東側にある橋が猿猴橋で、京橋川から分流された猿猴川にかかっていた。（図1）

なおデルタ七本の川は、たびたび洪水に見舞われたため、昭和初期から放水路工事に入り、一九六七年（昭和四二）に太田川放水路として完成し、現在は六本の川になっている。（図2）因みに、現在では、広島市全体では大小二千八百二十橋、市中心部でも約百橋弱がある。

猿猴橋の誕生は、およそ四百三十年前、毛利輝元の広島城築城の開始までさかのぼることができる。その後、猿猴橋にかかる唯一の橋として、また西国街道の広島発着の玄関口に当たる橋として、参

勤交代をはじめさまざまな公的交
流、経済の大動脈
として賑わいを示
していた。(図3)
儒学者頼山陽
も、当時は本造
の橋であつたが、
一八二五年(文政
八)一年ぶりに京
都から郷里広島に
帰ってくるとき、
猿猴橋にたどりつ
いて、「猴子橋頭
暮煙生し／已に看
る兩岸市燈の懸る
を／同人怪しむ莫
れ吾が行の疾き
／……」(「頼
山陽詩碑」説明版
より)と詠んでい

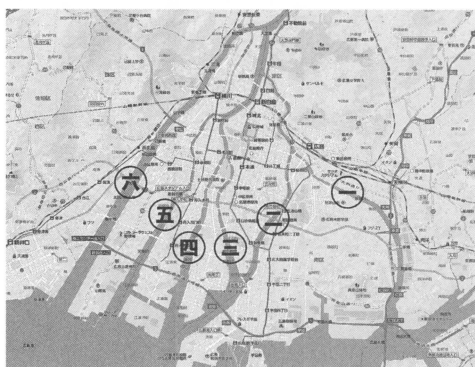


図2 平成28年6月16日現在の広島市の6本の川、①、②、③、④、⑤、は図1と同じ、⑥太田川放水路

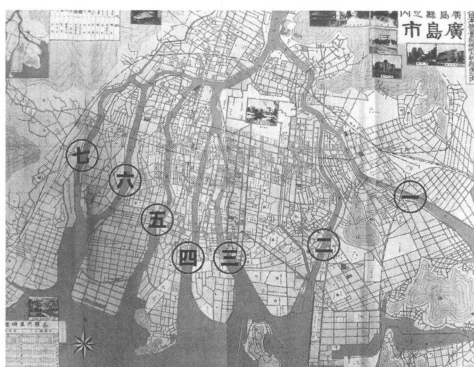


図1 昭和4年の広島市の7本の川、①猿猴川、②京橋川、③元安川、④本川、⑤天満川、⑥福島川、⑦山手川、あき書房 平成20年1月25日復刻版発行地図より

る。当時の広島の人びと
がこの橋に、どのよう
な思いをよせていたか、
推察することができる。
一八八六年(明治一九)
三月猿猴橋は石の橋脚に
架け替えられたものの、
その後も何度か洪水のた
めに修理を繰り返してい
る。(図4)

なおすぐ近くにある広
島駅は一八九四年(明治
二七)六月一日に開業
している。

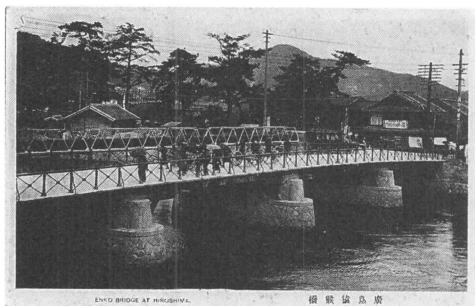


図4 明治19年架け替えられた石の橋脚 当時の絵葉書より

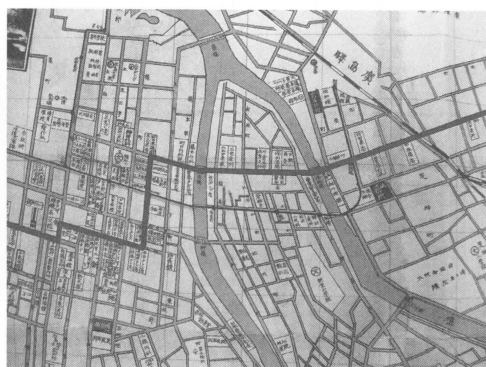


図3 図1の猿猴橋周辺拡大図と西国街道(近世山陽道)

(二) 華麗なコンクリートの橋に

一九二五年（大正一四）広島県は、猿猴橋を鉄筋コンクリートの永久橋として、架け替えることとし、埼玉県より橋梁専門の田部俊一技師（広島県出身）を郷里広島県に招聘した。田部技師の指導のもと、同年四月より広島市内段原の妻木組（妻木伊三郎）の施工で、仮橋の建設から始められた。（図5）妻木組は、架橋は得意とする分野であった。同年九月の大洪水で仮橋が流されるという事態が生じたが、無事翌年一九二六年（大正一五）三月一六日竣功式を迎えた。（図6）

広島県もこの猿猴橋には特別の思いが込められていたようだ。

当時の資料「道路の改良」（注二）には、「親柱上部には、吉祥を意味して二様の鷹を配置して」とあり、地球儀の上に鷹が羽ばたく二つの姿は阿吽の關係にあった。

また、「その他の大体の様式は、『セセッション』式を採用しているので、すべてがその意味によつて設計されている」とある。したがって和洋のデザインが取り入れられ、大正ロマンの雰囲気が漂う、優雅で華麗な設計となっている。当時の橋としては先進的な技術と装飾を凝らした、広島にとって誇らしい橋であった。また照明には、ガス灯ではなく最新の電灯が使われた。なお欄干には、二匹の猿猴（猿）が桃をささげている透かし彫りのレリーフが施されてい

る。桃には桃源郷の意味もあり、市民の長寿と幸福の願いも込められていたと言われている。支柱には、セセッション様式の特徴である幾何学的模様や渦巻き模様も散見された。

一九二六年（大正一五）の竣功式では、当時の広島県知事濱田恒之助は、広島県の経済発展、文化の振興と福利の増進を願つてこのようない美し、環境にも配慮した橋を建てた、と挨拶している。

セセッション様式は、大正初期の工芸作品や染色作品にも多く見られ、広島では一九一五年（大正四）に落成した、ヤン・レル設計の広島県物産陳列館（の



図6 大正15年3月16日の羽織袴姿の竣功式の模様 広島市提供

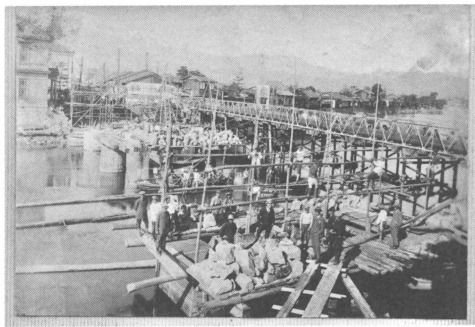


図5 大正14年コンクリートの猿猴橋架橋工事現場 田部ハツコ様提供

ち広島県産業奨励館、原爆ドーム）もセセッション様式で建設されている。

(二) 一九四三年（昭和一八）金属供出にて現在の橋に

このように市民に愛された自慢の橋も、戦争には勝てなかった。一九四一年（昭和一六）に施行された金属回収令により、広島市内も例外なく、橋の飾りや銅像、寺の鐘等が次々に供出された。

一九四三年（昭和一八）九月一二日の中国新聞（夕刊）によれば、「お猿の欄干応召 猿猴橋の美術的装飾」と見出しがあり、「橋梁としての工芸美術品として一度は金属回収を見合わせられていた広島市猿猴橋の欄干は、決戦下にはいよいよ応召の時がきた。お猿の欄干として、市民に親しまれた猿猴橋の欄干は、工芸美術品として工業学校などの教材として惜しまれ、当局も親心で、前回金属回収の際に取り除かれず、一般への説明のため、立札を特に建てたほどであったが、戦局の現勢はそれを許さず、いよいよ回収されることになったもので、当（広島県）経理課は取り外し後の仮欄干工事材料がとこのい次第、工事に着手する・・・」

と掲載されている。広島市民も特に猿猴橋近隣の住民達は、地元の誇りでもあった親柱の地球儀上の鷹の像や、猿猴のレリーフのある欄干の供出には、特別の思いがあったに違いない。

(三) 一九四五年（昭和二〇）八月六日被爆橋となる

金属供出で親柱も欄干も改修された猿猴橋は以前のような華麗さとはなくなり、花崗岩のみの寂しい姿となった。（図7）

戦況は一段と厳しくなり、一九四五年（昭和二〇）八月六日八時一五分、広島県産業奨励館（現原爆ドーム）上空で炸裂した一発の原子爆弾により、広島市内は一瞬にして地獄絵図となった。猿猴橋も爆心地から二キロ以内で被爆橋となったが、橋は爆心地より平行な角度に位置していたため爆風による被害は軽度で、倒壊に至ることはなかった。

猿猴橋は逃げ惑う被爆者の避難橋として多くの市民の命を救い、重要な役目を果たしたとされている。当時は現在の駅前大橋はなく、少し北側に木造の橋があった。被爆時その木橋はすぐに発火し、落橋したとされている。

駅前大橋は、一九五六年（昭和三一）に架橋された。



図7 金属供出され原爆にも耐えた復元される前の猿猴橋親柱 猿猴橋復元の会提供

現在の大橋は、二〇〇一年（平成一二）に架け替えられた。

二、復元運動の始まり

二〇〇七年（平成一九）一〇月半ば的場町一丁目町内会長 尾津稔之氏から復元を考えてみないかという提案があり、それを受けて町内会役員が「猿猴橋サミット」を開くことになった。

同年一〇月二六日通称「猿猴橋サミット」が的場町一丁目の町内会役員を中心として開催された。会場は的場町一丁目町内会会議室（JRA内）。被爆後から当時の姿を知る長老の間で猿猴橋の昔の姿を懐かしむ声がある事は耳にしていた。またその長老たちも八十、九十歳となり、役員たち自身の間にも、いずれ猿猴橋の姿を知る人が居なくなることの危機感があった。サミットには、対岸の猿猴橋町の役員も参加していた。

そこで猿猴橋復元の会準備委員会が結成された。以下、その活動を記す。

・二〇〇八年（平成二〇）三月二五日

市民に理解しやすくまた視覚的にわかりやすくするため、猿猴橋の「復元CG」と復元模型（三五分の一）の製作をすることにし、広島市立大学吉田幸弘准教授（のち教授）に依頼した。

・二〇〇八年（平成二〇）五月二八日

「猿猴橋復元CG」完成される。（図8）的場町一丁目町内会総会にて発表。町内会より復元の会準備会へ三〇〇万円の寄付を決定。マスコミに公開される。

・二〇〇八年（平成二〇）六月一日

「猿猴橋はアートだった」という見出しで、中国新聞一面に写真入り記事が記載される。

・二〇〇八年（平成二〇）七月一四日

猿猴橋復元の会準備会を廃止し、「猿猴橋復元の会」を設置。規約を決める。筆者が会長に就任。会員（資料一）と規約（資料二）を参照。

以後毎月第二月曜日の午後六時を例会とした。

・二〇〇八年（平成二〇）

一月二一日

吉田准教授に依頼していた復元縮尺模型が完成。（三五分の一）町内にてマスコミに公開。（図9）

原爆により設計図が消失している中、吉田幸弘



図8 広島市立大学吉田幸弘准教授研究室製作の猿猴橋復元CG 猿猴橋復元の会提供

准教授には現存の写真を解析して製作をされた。大変な作業で、会として感謝申し上げたい。

・二〇〇九年（平成二二）八月一九日

猿猴橋の復元運動を広く市民に知っていただく為、まず実物大の親柱をモニュメントとして設置する運動を開始すること

を決定。設置場所は猿猴橋の場町側の緑地帯とする。

また、設置費用の募金活動も開始し、寄付を一般市民から募る。（目標額一〇〇〇万円）

同時に親柱モニュメントの制作を広島市立大学に依頼する。担当は吉田准教授。

・二〇一一年（平成二三）猿猴橋が土木学会の選奨土木遺産に選定される。

猿猴橋は、花崗岩を多用した装飾的な橋梁で、原爆にも耐え、広島市の街の復興を見届けてきた土木遺産として、同じく旧西国街道筋に位置する京橋（昭和二年竣工）とともに土木学会の選奨土

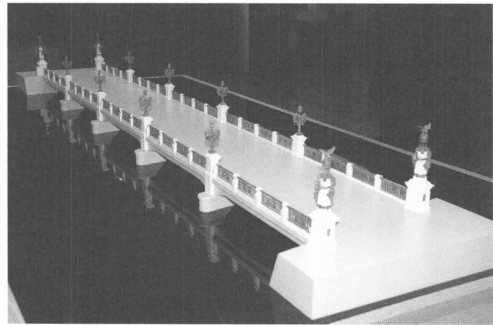


図9 広島市立大学吉田幸弘准教授研究室製作の猿猴橋復元模型(35分の1)猿猴橋復元の会提供

木遺産に選定される。

・二〇一二年（平成二四）三月八日

広島市の彫像・記念碑等の設置審査委員会にて親柱モニュメントの設置認可を受ける。

・二〇一二年（平成二四）七月二七日

復元の会メンバー八名で広島市松井一實市長を訪問し、親柱モニュメントの設置認可のお礼とともに、猿猴橋本橋の復元を懇願する。その後広島市記者クラブにて記者会見を行い、親柱モニュメントの設置を行うことと猿猴橋復元運動を今後も継続して行うことを発表した。

毎月の例会には復元の為に、あらゆる角度から多くの方を招聘して意見をいただいた。

その中でも、市の関係者や土木関係の方からは、本橋の復元についてはほとんど不可能に近いという意見が多く聞かれた。それでもかすかな望みを抱きつつ例会は続けられた。この継続が今思えば時を得て、復元に繋がったものと確信している。

その間、地元各新聞社、テレビ等各マスコミにより、数十回の報道がなされた。

その他、市民からの協力で、地元作詞家西田ただすけ氏・作曲家田中一夫氏による猿猴橋の歌が三曲（猿猴さん、猿猴橋よ、猿猴橋）

制作された。地元映画製作者も、猿猴橋をキーワードとした自主映画「風の記憶」を浴本一行監督が制作するなど、各方面の方々から復元運動の盛り上がりが見られた。

(二) 広島市の被爆七十周年記念事業として「猿猴橋復元の決定」

親柱モニュメント設置準備をしている最中、突然、二〇一四年（平成二六）一月三〇日の中国新聞に、広島市被爆七十周年記念事業として猿猴橋の復元事業を取り上げ実施のため、市議会へ平成二六年度予算に調査費を計上と発表された。

この報道には、我々復元の会のメンバーも耳を疑った。まさか本当に復元が実現するのか？早速関係者に確認を行い、市の平成二六年度予算で二〇〇〇万円の調査費が計上されれば、次年度平成二七年度には、復元工事予算が、計上されるのは確実とのことだ。

この決定には、被爆七十周年記念事業という、偶然のめぐり合わせも功を奏したが、松井広島市長の意向と指導があったものと感謝している。（復元工事は約四億円）

そこで復元の会としては、早々に会議を開き、親柱のモニュメントの設置について継続して行うかどうか議論になった。猿猴橋復元の会としては会員の皆さんが復元運動をしたという記録として親柱モニュメントは設置すべきだ。ただし今後本橋が復元されることと

なったからには同じデザインの親柱がモニュメントで設置されるのでは意味がないのではないか。そうであれば、親柱の上部地球儀と鷹を残して市民が身近に触って見られる高さにして設置したほうが親しみもあり、身近に鑑賞していただけるのではないかと。そういう理由で急遽デザインを変更する事となった。結果は、高さ五メートル二十五センチの親柱の上部のみ（地球儀と鷹）を復元し、全体の高さを二メートル四十四センチにし、手の届く高さで市民に鑑賞していただくこととした。

三、親柱モニュメントおよび猿猴橋本橋の完成

(一) 親柱モニュメントの完成と式典（主催 猿猴橋復元の会）

親柱モニュメントの募金活動も、市民の協力で、約一〇〇〇万円の目標を達成することが出来た。広島市立大学の吉田幸弘教授のスタッフの多大な努力により、モニュメントの完成が真近となり、いよいよ設置作業だ。完成式典の日が二〇一五年（平成二七）三月二六日（木）と決まり、数日前に大学スタッフと復元の会メンバーの見守る中、猿猴橋南詰めに設置作業は無事完了した。

二〇一五年（平成二七）三月二六日（木）午前十時三十分、以前から完成式典について、招待者など式典準備等を徐々に進めてい



図11 市民に親しめるよう手の届く親柱モニュメント 猿猴橋復元の会提供

た事もあり、式典は滞りなく無事に挙行された。復元の会のメンバーはもちろんのこと、松井広島市長を始め市役所関係者、近隣町内会関係者、募金に協力いただいた市民の皆様等、約一五〇人の関係者の見守る中、除幕式が盛大に行われた。特に復元の会のメン



図10 平成27年3月26日親柱モニュメント完成式典 猿猴橋復元の会提供

バーは感無量であったと思う。(図10、図11)
二〇一五年(平成二七)四月から広島市は猿猴橋本橋の復元の本格的な作業に入り、7月ごろから猿猴橋周辺があらたになつてきた。親柱、欄干とも取り払われ、歩行者のみの通行制限を行いながら復元作業が行われた。(図12)



図12 復元作業 猿猴橋復元の会提供

(二) 猿猴橋復元工事完成式典(主催 広島市)

および渡り初め式、点灯式(主催 えんこうさん実行委員会)

二〇一六年(平成二八)三月二十八日 松井広島市長、湯崎広島県知事および関係者列席のもと、猿猴橋復元工事完成式典及び、祭り「えんこうさん」の渡り初め式、点灯式が盛大に行われた。参加者が延べ一万人を越えたといわれている。(図13、図14、図15)

四、おわりに

広島駅周辺の再開発が進む中、猿猴橋の復元が完成し、渡り初め式の時、筆者は橋が生き返って呼吸をしているように感じた。大正の先人達の想いと猿猴橋の魅力が、現代の私達の心に響いた結果が今ここにある。今後この橋は駅周辺の再開発のシンボルとして、また観光拠点として広島への賑わい作りに貢献できる重要な起点となることだろう。広島市の「楕円形の都市づくり」構想の中で、西国街道の広島への玄関口として、駅周辺から八丁堀、紙屋町地区へと繋がってい



図14 復元された猿猴橋 猿猴橋復元の会提供



図13 平成28年3月28日 祭り「えんこうさん」
渡り初め式 猿猴橋復元の会提供

くこととなる。市民主導の新たな祭り「えんこうさん」構想も芽生えてきた。広島歴史とともに大切に育てていきたい。

この「猿猴橋復元の会」の運動が、各地域において参考事例となれば幸甚である。

また、猿猴橋復元の会は、いずれ猿猴橋保存会へと引き継いでいきたい。

最後に、この猿猴橋の復元に寄付をいただいた市民の皆さんはもとより、復元工事に関わった広島市の担当職員、復建調査設計株式会社、宮川興業株式会社、広島市立大学吉田幸弘教授はじめスタッフの皆さんに、心から感謝とお礼を申し上げます。

注
発行)

一、「道路の改良」第八巻第五号 道路改良会発行（大正一五年五月一日）
（おおはし・けいいち／ひろしま美術研究所 猿猴橋復元の会会長）

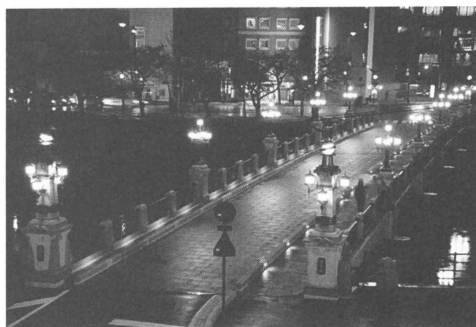


図15 復元された猿猴橋夜景 猿猴橋復元の会提供

資料一

猿猴橋復元の会 会員名簿

会長 大橋 啓一 (広島芸術専門学校・ひろしま美術研究所 校長、

副会長 尾津 稔之 (尾津メンズショップ社長、的場町一丁目町内会会

副会長 新田 実 (株)新田メリヤス社長、広島市問屋街本通り会会長、

副会長 可部 典良 (株)可部寅呉服店社長、的場町一丁目町内会副会長、

副会長 岡村 正治 (NTT字品神田ビル管理責任者、的場町一丁目町

副会長 増本 光雄 (マスカメラ商会社長、猿猴橋町町内会監事)、広

副会長 松田 茂也 (株)松田毛織会長、的場町一丁目町内会副会長)

副会長 松田 幸司 (株)把田社長、的場町一丁目町内会副会長)

副会長 幸司 (二〇一五年(平成二七)十一月死去

副会長 幸司 (二〇一五年(平成二七)十一月死去

副会長 幸司 (二〇一五年(平成二七)十一月死去

副会長 幸司 (二〇一五年(平成二七)十一月死去

副会長 幸司 (二〇一五年(平成二七)十一月死去

副会長 幸司 (二〇一五年(平成二七)十一月死去

副会長 幸司 (二〇一五年(平成二七)十一月死去

副会長 幸司 (二〇一五年(平成二七)十一月死去

副会長 幸司 (二〇一五年(平成二七)十一月死去

副会長 幸司 (二〇一五年(平成二七)十一月死去

副会長 幸司 (二〇一五年(平成二七)十一月死去

副会長 幸司 (二〇一五年(平成二七)十一月死去

副会長 幸司 (二〇一五年(平成二七)十一月死去

副会長 幸司 (二〇一五年(平成二七)十一月死去

副会長 幸司 (二〇一五年(平成二七)十一月死去

副会長 幸司 (二〇一五年(平成二七)十一月死去

副会長 幸司 (二〇一五年(平成二七)十一月死去

副会長 幸司 (二〇一五年(平成二七)十一月死去

副会長 幸司 (二〇一五年(平成二七)十一月死去

副会長 幸司 (二〇一五年(平成二七)十一月死去

副会長 幸司 (二〇一五年(平成二七)十一月死去

副会長 幸司 (二〇一五年(平成二七)十一月死去

副会長 幸司 (二〇一五年(平成二七)十一月死去

副会長 幸司 (二〇一五年(平成二七)十一月死去

を行う。

(役員)

第4条 1、復元の会は次の役員を置く。

(1) 会長1名(2) 副会長5名(3) 監事2名

2、顧問、相談役は必要に応じて置くものとする。

(部会)

第5条 部会は次の5部会で構成する。

(1) 制作部会(2) 財務部会(3) 渉外部会(4) 広報部会

(5) 総務部会

(会議)

第6条 1、復元の会の会議は会長が招集する。

2、会議は必要に応じてオブザーバー、その他関係者の出席を求

めることができるものとする。

(経費)

第7条 復元の会の経費は寄付金その他の収入を持って充てる。

(事務局)

第8条 会の事務を処理するため事務局を広島芸術専門学校に置く、

(会規定)

第9条 この規約に定めるもののほか、復元の会の運営に関し必要な事項

は役員会で定めるものとする。

(附則) この規約は平成20年7月14日から施行する。

資料二

猿猴橋復元の会規約

(名称)

第1条 この会は猿猴橋復元の会(以下「復元の会」という)と称する。

(目的)

第2条 復元の会は大正15年3月に永久橋として架け替えられ、その容姿

が大正ロマンの結実と賛られたにも拘わらず昭和18年9月の金属

回収により供出された装飾部分を復元し、原爆にも耐えたこの橋

の存在価値を一層高め、平和都市の象徴として広島駅表口再開発

及び観光の目玉とする。

(構成)

第3条 復元の会は事業を円滑に行うために部会を置き事業の立案、実施